

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立第二小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 118人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国より、0.4%上回っている。学習状況調査においても、国語が将来役立つかについても全国より1.4%高い。
しかし、学習状況調査より、国語が好きかどうかの項目では、全国より10%下回っているため、継続した授業改善が必要である。 平均正答率（本校 67／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>○話し言葉と書き言葉の違いを理解するのに課題がある。（問題文の読解・弁別に課題） 1ー話し合いの様子において、発言の理由として適切なものを選ぶ。（81.2／85.5）</p> <p>○人物像や物語の全体像を具体的に想像するのに課題がある。（書かれていないことを想像することに課題） 2ニ物語から伝わってくることを考え、内容を書く。（66.7／68.3）</p>	<p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章のよりどころを見つけるのに課題がある。 3ー文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える。（58.1／59.2）</p> <p>○同音や訓読みの漢字の定着に課題がある。 3三漢字を文の中で正しく使う。 ア「録画」（64.1／65.2） イ「親しむ」（61.5／67.1）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	49.1	59.2	○	10.1
国語の勉強は大切だと思いますか。	92.3	93.3		1.0
国語の内容はよくわかりますか	82.2	84		1.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	93.2	91.8		1.4

- 問題で問われていることをよく読み、本文の内容を照らし合わせて解答を選択することに課題がある。
思い込みのミスが目立つ。このことから、選択肢同士を比較し、本文の該当箇所をよく読み、適切でないものを省きながら検討していくという思考の過程を大切にする必要があると考える。
- 複数の条件を満たして書くこと、自分の考えを表現することに課題がある。日常的に、自分の立場を選択し、自分の考えを表現する授業を意識的に行っていく必要がある。
- 「物語文から伝わってくることを考えて書く」という問題は、無回答率も高く、文中に載っていない問題は記述をあきらめる傾向にある。物語から受け取るメッセージ性を考えることも取り入れていきたい。
- 漢字の問題では、同音の漢字・送り仮名がある訓読みの定着が弱い。同音の漢字は、ほかの同音の漢字と間違えて覚えている児童が多いことから、授業の中で、同音の漢字を比較したりする必要がある。また同音漢字や訓読みの復習問題に取り組んだりしていく必要がある。
- 国語の勉強は大切で、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童は9割をこすものの、国語の勉強が好きではない児童が5割いる。本校では「想像することが難しい」「考えることが苦手」という児童や、「考えは持てても、何をどうやって書けばいいのか悩む」という児童が多数いる。また、「字を書くこと、読むこと」など基本的技能に課題をかかえる児童も一定数いる。以上のことから、基本的技能を培う取り組みを継続するとともに、児童が「したい!」「やりたい!」という課題設定と「この力がつく」ということができるようになる」という児童への丁寧な説明をより行っていく必要があると考える。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国よりもやや上位の傾向が見られる。
平均正答率（本校 64／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>○朝学などで、学習した内容を復習することがおおむねできている。 1（2）最小公倍数を求める。（77.8/72.2）</p> <p>○見積もりは、問題文によって見積もりの仕方を選択しなければならないことに課題が見られる。 1（4）85×21の答えが1740より必ず大きくなることを判断するための数の処理。 （32.5/34.8）</p> <p>○テープ図を校内で周知、研修を行っていることで、普通の授業でも活用されており、おおむねできている。 2（2）割合と基準量から、比較量を求める。 （70.9/64.4）</p> <p>2（3）数量が変わっても、割合が変わらない問い。 （24.8/21.4）</p>	<p>○一番目の意見のみをとっており、問題文全文を読むことに課題が見られる。 3（2）データを基に、目的に応じたデータを選択する。（58.1/63.9）</p> <p>○例示された式を基に、求めたい式や数値を求めることがおおむねできている。 3（4）加法と乗法の混合した数の求め方を解釈し、場面に応じた答えを選択する。（73.5/67.7）</p> <p>○図形の性質をよく理解している。しかし、プログラミングを理解していない児童も多く見られ、無回答も全国に比べ多いことに課題が見られる。 プログラミングを活用した指導も今後必要と考えられる。 4（2）図形を構成する要素に基づいて、長方形を書くプログラムを記入する。（82.1/83.2）</p> <p>○ひし形を構成する要素の理解に課題が見られる。 4（3）ひし形をかくためのプログラムを選択する。 （61.5/66.5）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	43.2	36.2	◇	7.0
算数の授業の内容はよく分かりますか	55.9	45.6	○	10.3
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	56.8	44.9	○	11.9
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	50.8	43.8	◇	7.0
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	55.9	48.5	◇	7.4

- 基本的な計算や、図形の構成要素は理解できている児童が多いが、問題自体の問われていることが理解出来ていない児童も多い。また、要点を説明する力が不足している。基本的な力の習得と共に、問題の読解力や説明する力の向上に努める。授業の中にも、発信する力の育成の工夫を取り入れていく。
- プログラミングを活用した図形の書き方など、プログラミングを学ぶ機会を増やす必要がある。
- 無回答が一部の児童に多い点に関して、問題に応じて、既存の学習を組み合わせることで回答する力が弱いようだ。算数を用いて、考える場面が実生活の中にもたくさんあることを知り、失敗を恐れず、問題に取り組む姿勢が求められる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国よりもやや下位の傾向が見られる。

平均正答率（本校 62／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
2 (2) メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。(66.7/70.0) (3) 水溶液の実験結果を基に問題に対するまとめを選ぶ。(57.3/62.8) (4) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に問題を解く。(41.9/39.3) 3 (1) 光の反射を理解している。(21.4/27.8) (2) 実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ。(69.2/74.4) (3) 実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く。(61.5/68.9)	(4) 実験結果を分析し、自分の考えを書く。(35.0/35.1) 4 (1) 実験結果を分析し、自分の考えを書く。(78.6/82.3) (2) 他者の予想を基に、見通しを立て自分の考えをもつ。(62.4/64.5) (3) 結果からいえることを分析し自分の考えをもつ。(48.7/45.5) (4) 水滴と氷の粒は何か変化したものか書く。(52.1/62.0)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の授業は好きですか	78.3	79.7		1.4
理科の授業の内容はよく分かりますか	92.4	88.5		3.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	69.5	77.2	◇	7.7
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	77.5	78.0		0.5
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	68.7	72.2		3.5

○記述問題になると無回答が多くなっている。また文章問題を読まずに、図だけで判断して答えていることが伺える。

○実験結果は理解しているが、問題に対するまとめとしての正答が選べていない。問われていることが理解できていない可能性が考えられる。

○メスシリンダーやグラフの読み取りなどのメモリの読み取りに課題がある。理科以外の科目でも資料も読み取りをする機会を増やしていく必要があると感じた。

○既習の理科用語・知識が定着していない。新しい単元に入るときだけでなく、単元を振り返る機会を設ける必要があると感じた。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○携帯電話やスマートフォンを持っていない児童が少ない。</p> <p>○難しいことでも、挑戦している児童が少ない。</p> <p>○学校に行くのは楽しいと思う児童が60%と多くいる。</p>	<p>○携帯電話やスマートフォンを持っていない。(6) <13.6%/20.6%></p> <p>○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。(11) (当てはまらない) <33.9%/27.5%></p> <p>○学校に行くのは楽しいと思いますか。(16) (当てはまる) <63.6%/51.7%></p>
【家庭学習の様子】	<p>○わからない課題があったとき、家族や友達に聞き、解決しようとする児童が多いが、わからないままにする児童が20%と多くいる。</p> <p>○3時間以上学習する児童と2時間未満の学習時間の児童が多く、学習時間の差ができています。</p> <p>○読書離れが進んでおり、約3人に1人は普段全く本を読んでいない。</p> <p>○地域行事への参加意識が低くなっていること、行事自体がコロナ禍で少なくなっていることが考えられる。</p> <p>○全国と比べて、1日にICT機器を勉強に使う時間が少ない。</p>	<p>○わからないことは、そのままにしている。(19) <19.5%/11.6%></p> <p>○学校以外で3時間以上勉強している。(21) <25.4%/11.3%></p> <p>○学校以外での勉強時間、1時間以上、2時間より少ない。(21) <16.9%/34.3%></p> <p>○学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらい読書をしますか。(23) 全くしない割合 <35.6%/26.3%></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか。(29) <36.4%/51.3%></p> <p>○普段（月曜日から金曜日）1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。(1時間以上、2時間より少ない。) <7.6%/12.4%> (37)</p>
【学校での学習の様子】	<p>○学校でICT機器を使って意見交換する場面が全国に比べて少ない。</p> <p>○調べ学習等でICT機器を使うことが少ない。</p> <p>○肯定的な回答は全国に比べて低い。本校の回答としては「どちらかといえば当てはまらない」に次いで「当てはまる」と回答した児童が多く、意見に差がある。</p>	<p>○学校で、学級の友だちと意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか（ほぼ毎日～週3回以上） <40.7%/49.4%></p> <p>○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(74.6%/83.2%)</p> <p>○学校で授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。(57.7%/76.1%)</p> <p>○国語は好きですか。(どちらかといえば、当てはまる。) <23.7%/35.8%> (49)</p>

本校の取組

◎これまでの取組み

(1) 研究主題と研究体制

本校では、3年前から国語科の読むに焦点を当てて取り組んできた。一昨年度（R2年度）からSE推進事業の指定校（TM校）となり、昨年度は、「論理的思考を育てるための国語科教育」というテーマで説明文に特化して取り組んだ。「つきたい力」を明確にし、その「つきたい力」が発揮されるゴールの言語活動を設定し、ゴールからの逆向き設計で授業計画を立てることを全学年の全説明文の単元で行った（本校の単元計画シートを使って）。構造や内容の大体をとらえる方法として、『説明文の家』の考え方を全職員で共有。系統だった指導ができるように、説明文に必要な「指示語」「接続詞」「段落の中心」「事例と意見」など、意識すべきことも共有した。

昨年度からは、「主体的に学ぶ力」を研究テーマとし、説明文を重点教材にしながらも、すべての教科の中で「子どもたちの主体性」を育む授業づくりに挑戦してきた。「主体性を育むための視点」として、以下の3つの視点を共有している。

- ①子どもたちの「したい!」「やりたい!」が引き出せているか。
- ②その「教師が〇〇する」を「子どもが〇〇する」に置き換えられないか。
- ③子どもたちに自分たちの学びが見えているのか。

今年度は、とくに①の「子どもたちの『したい!』『やりたい!』が引き出せているか」を重点項目に掲げ、各教科でPDCAサイクルを回しながら授業改善をしてきた。

また、一昨年度から、週に1回の「読解チャレンジ（読み取りちゃん）」を各学年行っている。初見の説明文の読解にチャレンジし、振り返りを書き、「自力読みができる力」「意見をもつ力」を養っている。ほかにも、朝学では、算数のプリントに週2回、国語の漢字や文法のプリントを週1回取り組んでいる。

(2) 少人数・習熟度別指導

算数科の少人数指導や習熟度別指導は、「①児童一人ひとりの特性を理解し、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着をはかる。②つまずきの克服や学習意欲の向上につながるように、授業方法や授業体制を工夫し、自ら学び自ら考える力を育てる。」ことを目標にしている。

今年度、本校では第3～6学年の算数科において、単元ごとに習熟度別少人数分割授業と単純分割少人数授業を選択して行っている。学力を高めるために話し合い活動を多く設定したり、教材を工夫したりし、より細やかな指導を行っている。また、単元の学習計画や学習進度については、学年・学級担任と少人数担当教員とで綿密な打ち合わせを行い、指導を進めている。

(3) 校内学力テスト

国語科では、同じく7月と11月に市で作成している「書く力」のテストに取り組んでいる。両テストの実施後は分析を行い、本校の取り組みの成果と課題の資料としている。また、学期末には期末のまとめテストや力試しテストの結果の分析も行い、そこから浮かび上がってきた課題について研究推進部会で取り上げ、児童の実態にあった指導体制・指導内容等について意見交換を行い、より効果的な学習指導が進められるよう取り組んでいる。

(4) その他

子どもたちの作品を1階に掲示する取り組みや、廊下や階段への学習内容の掲示（ことわざ・四字熟語・ローマ字・学年の漢字表などいろいろ）など、いろいろな取り組みをしている。特に、今年度は、給食の準備の時間に当番ではない児童で九九を覚えたい児童（定着が難しい児童）対象の「九九チャレンジ」を2学期ずっと行っている。楽しくポイントシールを集めながら、九九名人目指して頑張っている。少人数担当者とTM担当者で行っているが、4・5年の児童にも声をかけて、ボランティア先生になってもらい、九九の定着を目指している。子どもたち同士の教え合い（4年生が3年生のわり算をみたり、1年生の足し算引き算のカードを聞いてあげたりする）も何度か行っている。

◎これからの取組み

国語の問題に関しては、昨年度まで全国よりマイナス5%だったのに対し、今年度はプラスに転じている。これは、ここ数年、「国語科」に焦点を当て、『説明文の家』などのツールを共有して使い、系統立てた指導に取り組んでいる成果だと思われる。「はじめ」「中」「終わり」の3部構成の役割も子どもたちに定着してきて、それを「書く」にも生かすことを今年度意識して取り組んでいる。今後も、この3年で積み上げていた、説明文の単元計画の練り方と、共有している考えを持続し、さらに、子どもが考えを持ち、考えを順序良く相手に伝わるように述べる力を、国語科を中心に全教科で育成していきたい。

しかし、国語科において学習状況調査からは、「国語の授業が好きですか」という項目では、全国と10%の開きがある。分析すると、子どもたちは「国語科の大切さ、将来役立つこと」を9割以上の児童がよく理解しているが、国語に対して苦手意識、おもしろくないという意識を持っている児童が多いことがわかる。今年度、本校で国語科に対してのアンケートをとった結果によると、国語科が苦手だという児童には大きく2つのタイプが見受けられた。「考えをもつのが苦手」「想像するのが苦手」という児童のグループと、「思うことや考えはあるのだが、何からどうやって表現したらいいかわからない」という児童のグループである。また、「字を書くこと」「文を読むこと」自体、ものすごく苦手な児童も一定数いる。昨年度から取り組んでいる主体性を育む授業づくりの3つの視点にもあるように、子どもが「したい!」「やりたい!」と思え、子どもが学びの中心になり、子ども自身に自分たちの伸びが感じられる授業づくりに取り組んでいきたい。特に、子どもたちの必要感、チャレンジの気持ちをくすぐる、子どもの目線に立った授業づくりを、創意工夫していきたいと考える。さらに、国語の授業では、「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする」という項目が弱いところから、まず国語科で、自分の考えを述べ、そう思った根拠を挙げ関連付けて書く活動を意識して取り組みたい。国語科で、児童自身が自分の成長を実感できるように丁寧に指導しながら、全教科で自分の考えを書く活動を実施したい。

ほかの週1回の取り組みの「読解チャレンジ」問題や朝学の文法や漢字の問題は引き続き実施していきたいと考える。

算数科においては、「基礎学力の定着」「応用問題への取り組み」の二つの観点から、週に二日朝学習の時間を設けて取り組んでいる。基礎学力の定着のために基本的な四則の問題を週に二日行い、応用問題への取り組みのために月に一度B問題への取り組みを行っている。また習熟度別分割学習の際には、じっくりコースの児童には基礎の練習プリントを、どんどんコースの児童には毎時の課題の後に取り組めるB問題プリントや記述式問題のプリントや論理力を養うためのクイズ方式の問題などを準備し、児童の積極的な学びにつなげたり、実態に合わせた問題に取り組んだりできるような環境を整え、学力の向上に取り組んでいる。

基礎的な知識や技能は比較的定着しており、日々の学習の成果が出ていると考えられる。しかし、授業内に単元名から課題を把握し解決することはできても、実際に文章を読み取り、四則のうちどれを使って解決するのか、数字をどのように使って立式をするのか、と考える力にはまだまだ課題がある。特にかかけ算やわり算の学習において「1あたり量」の理解の定着に課題が見られるため、多くの文章問題に触れたり文章で与えられた問題を図示したりするなどの手立てを行い、課題を明確に読み取る力をつけるような取り組みを行っていく。また、算数の時間外にも様々な問題に触れる機会をつくり、立式の判断を素早くできるように学力の定着をさらにはかる必要がある。選択式問題とその根拠を説明する力や自分の考えを表現する力等にも課題がある。これらの課題解決に向けて、自分の考えを書く活動とともに、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。

それ以外にも、個々の児童の成果や課題を確実に把握するために、算数アンケートを行っていく。課題を克服するため、より言語活動を充実させ、個に応じた指導のあり方の研究を進めていく。教材研究、単元の学習計画、学習進度、児童個々の評価については、学校全体で共通理解し研究を進めていく。

また、今年度取り組んでいる「九九チャレンジ」のように、苦手意識のある児童を担任だけでなく、担任外の教師や上級生が関わり、児童自身の「やる気」を高められるような取り組みを行っていきたい。

また理科においても、記述問題になると無回答が多くなっているため、国語科や算数科との教科横断型を意識した授業展開が大切になると考える。

実験結果を予想し、どうしたらその実験結果を正確に測れるかを考えていきたい。そして、結果からどんなことがわかったか、どんなことが考察できるかも考え、まとめや考察を書くことを重視したい。そして、さらなる「知りたい!」「やってみたい!」につながる「ふりかえり」を重視し、自ら課題を設定し、探求できるような授業展開を意識していきたい。

理科の問題の中で、メスシリンダーやグラフの読み取りなどのメモリの読み取りに課題があった。理科以外の科目（国語・算数・社会）でも資料も読み取りをする技能を高めていきたい。教科横断的な視点で、資料の見方に触れる機会を多く設定することで、子どもたちの「読み取る力」が高まると考える。また、既習の理科用語・知識が定着していないので、「まとめ」や「考察」「ふりかえり」の時にも、教師が積極的に使うよう提示していきたい。